

第7回 カリキュラムワーキング部会 議事録

日時： 平成29年11月24日（金） 17:50～18:25

場所： 医学部長室

出席者： 秀部会長、石田、鵜飼*、越智、小池*、坂口、田中、松下各委員

欠席者： 安達、栗井、栗栖各委員

陪席者： 玉田主査（学生支援グループ）

（* 第7回ワーキング部会の委員として学生会から指名された委員、医学科4年）

審議事項

1) 平成30年度 解剖関連科目の計画について

- ・ 秀部会長より、平成30年度の解剖関連科目につき、「細胞社会と組織」および「発生生物学」を廃止すること、「系統解剖学Ⅰ」を「人間理解のための解剖学」に科目名変更のうえ教養科目として薬学部との合同授業とすること、「組織学総論」を2年次の「組織学各論」に統合しユニット名を「組織学」とすること、の3点について発議があった。
- ・ 鵜飼、小池両委員より、「細胞社会と組織」の廃止については異論はないが、「発生生物学」については、細胞・器官の成り立ちの過程を知るうえで有用な内容であり、他の基礎医学科目の理解のためにも役立つ講義であったため、廃止は残念であり、基礎医学を理解するための細胞、特に細胞間作用に関する講義が望まれるとの意見が出された。
- ・ 鵜飼、小池両委員より、2年次の人体発生学は5コマではコマ数が足りないという意見が出された。松下委員からは、全国的にみれば5コマでも特に少ないわけではないとの説明があった。秀部会長より、時間的な制約の関係で選択する必要がある場合、解剖学実習の現状維持と、解剖学実習を短縮したうえでの人体発生学のコマ数増加とどちらがより望ましいと考えるかとの質問があり、両委員とも人体発生学のコマ数増加と回答した。
- ・ 以上の意見をふまえ総合的に審議した結果、部会長から発議のあった3点については、いずれも原案通り実行することに決した。
- ・ 基礎医学を理解するための細胞に関する講義については、科目として成立するかどうかは新教授の専門分野にも依存するため、新教授が内定したらそのような講義を学生が望んでいる状況を伝え、空白となる1年次第4ターム月曜日の時間を使ってそのような科目を新設することを、積極的に検討していただくこととなった。
- ・ 2年次の人体発生学については、現状ではコマ数に余裕がないため、解剖学実習を削って代わりに人体発生学のコマ数を増やすかどうかを、新教授の意見も聞いたうえであらためて決めることになった。